

30amF-500

DSS (dextran sulfate sodium) 誘発大腸炎に対する sodium phenylbutyrate の発症抑制効果

○小野 和彦¹, 二村 聡², 秀島 優子¹, 西中川 拓也¹, 遠城寺 宗近¹, 鍋島 一樹², 中島 学¹(¹福岡大薬,²福岡大医)

【目的】 PBA (sodium phenylbutyrate) の dextran sulfate sodium (DSS) 誘発大腸炎に対する発症抑制効果の検討 (2)

【方法】 6週齢、ICR マウス♂に 3.5%DSS/dH₂O を自由飲水させ、PBA を day0 より連日経口投与した。症状の評価として Disease activity index (DAI) を用いた。また、大腸洗浄液を経時的に回収し、ELISA 法にて炎症性サイトカインを測定した。安楽死後、大腸長軸長の計測と組織学的検討を行った。

【結果および考察】 PBA 20 mg/day 投与群の生存率 (9/10) は無治療群 (4/10) に比べ有意に高く、DAI スコアの経時の上昇の抑制も認められた (Fig.1)。また、大腸短縮の抑制、大腸洗浄液中の炎症性サイトカイン (IL-1 β 、IL-6、TNF- α) の産生抑制が認められた (Fig.2)。以上より、PBA 経口投与にても腹腔内投与方法 (第132年会発表) と同様 DSS 誘発大腸炎に対する強い発症抑制効果を示した。

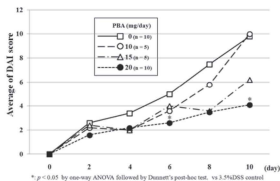


Fig. 1 The effect of PBA on clinical indices (DAI).

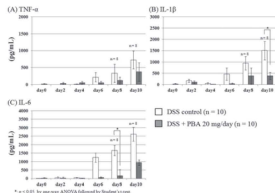


Fig.2 PBA の炎症性サイトカイン産生抑制効果